

研究概要報告書【音楽振興部門】

(1 / 1)

研究題目	子どもの鑑賞能力を育成する総合的アプローチによる音楽学習に関する研究 -ジュネーヴ州の学校コンサートにおける調査を通じて-	報告書作成者	今 由佳里
研究従事者	今 由佳里		
研究目的	鑑賞の授業は、子どもたちが受け身になりがちであり能動的・積極的な学習活動に発展させることは難しいという学校教育現場の声をこれまで申請者は度々耳にしてきた。このような日本の学校音楽教育現場の課題をうけ、本研究では、子どもたちの興味・関心をかき立て、創造性豊かなアプローチがなされているスイス・ジュネーヴ州公教育課の学校コンサートに関する取り組みについて調査し、鑑賞へのアプローチ方法と内容について明らかにし、日本の学校音楽教育へその成果を還元することを目的としている。 研究従事者（今由佳里）は、これまで、スイス・フランス語圏の学校音楽教育に関する調査研究を継続して行ってきた。ジュネーヴ州の音楽授業は、音楽にあわせて身体を動かしたり、音楽を視覚的に認識させるため音の動きを図形化したり、音楽のイメージを絵画で表現する、無音の映像に音や音楽をつけるなど多様なアプローチ方法を導入し、芸術分野を複合した形で、総合的・多角的な視点から学んでいることが特徴として挙げられる。このような総合的アプローチによる音楽学習は、子どもたちの対象に対するイメージを拡大し、音楽表現力育成に有効な手段となっている。2013年1月、ジュネーヴ州の小学校において音楽科授業を観察した際、3月に行われる学校コンサート鑑賞のための事前学習が行われているクラスを偶然目にする機会を得、その多様なアプローチの方法と子どもたちが興味を持っていきいきと学習活動に向き合っている様子に、日本の鑑賞授業への示唆を感じた。 ジュネーヴ州の小学校では、Concert Scolaire と呼ばれる学校コンサートが定期的に行われているが、このコンサートは、大きく3種類に分類される。 ① 各小学校自体が企画するコンサート ② ジュネーヴ州が組織するコンサート ③ スイス・ロマンド管弦楽団やジュネーヴ室内管弦楽団によるコンサート 本研究では三点目の学校コンサート、スイス・ロマンド管弦楽団によるコンセーフ ジュネ（Concert Jeunes）を対象として調査を進めた。具体的には、総合的アプローチによる鑑賞教材内容の分析と実際の授業の考察を通して、能動的鑑賞学習の在り方と特徴を明らかにし、日本の鑑賞学習へ示唆を与えることを目的としている。		

研究内容	1. Concert Scolaire の運営と構造 ジュネーヴ州公教育課では、スイス・ロマンダ管弦楽団をはじめとする地元プロの演奏団体と提携して Concert Scholaire と呼ばれる学校コンサートを、毎年州内の小学校へ通う子どもたちへ提供している。ジュネーヴ州内の子どもたちは全員このコンサートを鑑賞する権利が保障されており、成長したのちもこの時のコンサート体験が彼らの記憶に残り、音楽を生涯にわたって愛好する心情を育むひとつの契機となっている。本研究では、ジュネーヴ州公教育課音楽科長にインタビューを実施し、Concert Scolaire の運営と構造について明らかにした。 2. Concert Scolaire の事前学習に関する授業内容 ジュネーヴ州公教育課が企画する鑑賞プログラムはいくつかあるが、研究従事者(今 由佳里)が目にしたのは、シャルミーユ小学校の音楽専科教員マリオン・フォンタナ氏が実践したスイス・ロマンダ管弦楽団が提供する学校コンサート「マヌエル・デ・ファリャの《三角帽子》」と「映画音楽」であった。授業は、子どもたちが登場人物になりきってパントマイムや演劇、ダンスをテーマのメロディーに合わせて表現する学習から始められている。登場人物の一人である代官になりきって立派な三角帽子や当時の衣服を身に着けていく様子をパントマイムしたり、粉屋の役では、昔の粉ひきが重い石臼であった歴史を学び、重くて大きい石臼を動かす際の身振りや表情について、子どもたちにイメージさせながら表現している。粉屋の妻が踊るシーンでは、教師が手の仕草や足のステップなどスペイン舞踊の特徴を子どもたちにわかりやすく伝え、踊り子の役になりきってスペインの伝統的なダンス Jota のリズムによって情熱的なスペインのダンスを踊っている。音楽に対して様々な方向からアプローチし、子どもたちが能動的に学習活動を行っている姿が印象的であった。これらのアプローチは、ジュネーヴ州が独自に作成している教材集と教材用音源を用いて進められている。研究従事者が観察した授業は、学習の導入段階であったが、学習プログラムは段階をおって構成されており、音楽の理論的内容をはじめ、音楽をきいて批評する活動まで学習内容は計画されていた。 3. 事前学習のための教材集と教材用音源 ジュネーヴ州公教育課では、毎年この学校コンサートに先立ち、コンサートのための教材(教育内容が示された冊子とそれに附随する音楽CD、教師用指導書と生徒用ワークシートで構成されている)を独自に作成している。その内容を見ると、アプローチの方法は多様であり、音楽を学ぶのみにとどまらずダンスや演劇、パントマイム、絵を描くことなど芸術分野を総合した形で作品にはたらきかけることによって、子どもたちの中に楽曲のイメージを膨らませ、能動的な鑑賞活動へと繋げる方法が示されている。このようなアプローチは他の楽曲のアプローチの中にも見られ、子どもたちを音楽へと惹きつける要因となっている。本研究では、学校コンサートのために作成された教材を分析・考察することによって、子どもたちの鑑賞能力育成のための学習内容を明らかにした。
------	--

研究概要報告書【音楽振興部門】

(1 / 1)

研究のポイント	近年、日本でもアウトリーチや芸術鑑賞教室など、学校コンサートの需要が高まってきている。このような現状を鑑みて、他国の取組を知り、そのアプローチ方法を掴むことは日本の音楽教育に大きな示唆をもたらすものと考えられる。 研究従事者(今 由佳里)は本年1月、音楽科授業を担当する日本の小学校教員へ「鑑賞教育に対する意識調査」のアンケートを実施した。そこには、鑑賞の授業は子どもたちが受身になりがちであり、課題を感じている教師が少なくないという現状があることがわかった。このような日本の課題を受け、本研究では、能動的な鑑賞学習のアプローチ方法と授業の在り方について、ジュネーヴ州の取り組みから明らかにしている。
研究結果	ジュネーヴ州の Concert Scolaire 事前学習における鑑賞授業には、以下2つの特徴が見受けられた。 ①作品へ入りこむ体験型鑑賞学習 ・体験から感じ、学ぶ鑑賞授業:作品との出会いの演出とアレンジ ・作品に自らが入り込むという発想の転換 ②「わかる」と感じる鑑賞学習 ・表現に結びついた音楽的要素を見つける学習活動の多さ ・鑑賞活動と相互にはたらきかける表現活動の「しかけ」 ジュネーヴ州の鑑賞学習では、子どもたち自身が登場人物になりきり作品へ入りこむという発想の転換によって、能動的な鑑賞学習へと繋げている。例えば、登場人物のキャラクターになりきってパントマイムを行ったり、作品中に流れるダンスの音楽にあわせて踊る、演劇を取り入れて作品内容を解釈する、という学習活動を取り入れ、子どもたちへ鑑賞する楽曲に対する親近感を芽生えさせている。この教育的効果が、コンサートにおいて子どもたちを作品に惹きつけるひとつの役目を果たしていた。 教材集を見ると、子どもたちの音楽の聴き方、考え方の育成を図るよう構成されていることに気づかされる。具体的には①音・音楽の識別、②比較とコントラスト、③分析的聴取、④意識的聴取、⑤リズム表現、⑥身体表現、の内容で構成されていたが、この学習が、子どもたちの内面に、音楽を吟味して味わう力を養っていることがわかった。 なお本研究成果の一部は、財団が主催した第25回研究助成受賞者講演会で発表している。
今後の課題	本研究により、ジュネーヴ州の学校コンサートの枠組み、および事前学習の授業内容が明らかとなった。今後は、これまで20年以上に亘り作成されてきた100冊に及ぶ教材集の内容を網羅的に分析し、そのアプローチ方法の特徴をさらに探っていきたい。

CONCERTS JEUNES 1

Primaire: 5P-6P Harnos: CO/PO:
 Lundi 16.12.2013 9h30 et 10h30 Mardi 17.12.2013 14h15
 Mardi 17.12.2013 9h30 et 10h30 Mercredi 18.12.2013 9h30 et 10h30
 Jeudi 19.12.2013 9h30 et 10h30 Jeudi 19.12.2013 14h15

Joshua Weilerstein
 DIRECTION



Vienne à la carte

Johann & Josef Strauss
 Pizzicato-Polka

Johann Strauss
 Annen-Polka op.117
 Leichte Blut, Polka op. 319

Johann Strauss (Senior)
 Marche de Radetzky (version originale)

Wolfgang Amadeus Mozart
 Symphonie N° 40 en sol mineur KV 550,
 1^{er} mouvement

Joseph Haydn
 Symphonie N° 82 en do majeur,
 dite « L'Ours », Final

Pas toujours facile d'être compositeur dans la Vienne du XIX^e siècle !
 En effet, la tradition du classicisme viennois, à commencer par les symphonies de
Wolfgang Amadeus Mozart ou de **Joseph Haydn**, représente encore une concurrence
 redoutable. Les membres de la famille **Strauss**, tous plus talentueux les uns que les
 autres, contourneront le problème en faisant danser la capitale par leurs valses brillantes.

CONCERTS JEUNES 2

Primaire: 7P-8P Harnos: CO/PO:
 Jeudi 06.03.2014 9h30, 10h30 et 14h15 Mercredi 05.03.2014 9h30 et 10h30
 Vendredi 07.03.2014 9h30 et 10h30

Philippe Béran
 DIRECTION



L'été

Antonio Vivaldi
 Les Quatre Saisons op. 8, L'été

Arthur Honegger
 Pastorale d'été, poème symphonique
 pour petit orchestre

Felix Mendelssohn
 Songe d'une nuit d'été, ouverture op. 21
 et musique de scène op. 61 (extraits)

Voici trois visions estivales dont le point commun est leur légèreté trompeuse.
 La peinture musicale baroque atteint son sommet avec **Les Quatre Saisons** d'**Antonio**
Vivaldi. **La Pastorale d'été**, inspirée par des vacances dans les Alpes bernoises,
 se caractérise par une retenue qu'on n'associe pas forcément à l'œuvre d'**Arthur Honegger**.
 Enfin, qui mieux que **Felix Mendelssohn** a su rendre en musique l'esprit étincelant
 et les personnages attachants du **Songe d'une nuit d'été** du grand Shakespeare ?

"Le Tricorne" et "La danse rituelle du feu"

Manuel de Falla

Concerts Orchestre de la Suisse Romande
 Saison 2012-2013



Dossier réalisé par : Pascale Anzevri et Marie Ernst



写真 1: 5P-6P,Harnos 対象プログラム 7P-8P,Harnos 対象プログラム



写真2:教材集(2013 年 3 月コンサート実施)

マヌエル・デ・ファリャ《三角帽子》

写真 3:学校コンサートの様子(OSRパンフレットより)